

第10回日常診療経験交流会

口腔の衛生 常に意識

分科会・シンポジウムに2000人参加

開業医の経験や研究について交流し診療に役立てようと、医科・歯科保険医協会は11月30日、第10回日常診療経験交流会をグランキューブ大阪（大阪市北区中之島）で開催し、会場160人とウェブ40人、計200人が参加した。

歯科分科会は6演題

午前中は4つの分科会が開かれ、歯科の分科会では6人の会員から発表があった（詳細2面）。

午後「口内・腸内細菌の意外なお仕事―健康長寿への道―」と題してシンポジウムを開催し、「口から始まる健康寿命『口内フローラ』」を大阪医科薬科大学医学部口



質問に応じる植野氏（左）と入江氏（右）
＝11月30日、大阪市内

医療経済実態調査から見えてくるもの

歯科診療報酬の大幅引き上げを

口腔科学教室教授の植野高章氏、「ここまてわかつてきた腸内細菌と健康の科学」を関西医科大学医学部糖尿病・内分泌内科診療教授・科長の入江潤一郎氏が講演した。

口腔状態の全身への影響を強調
植野氏は、口腔内の細菌叢は腸内と密接に関係し、動脈硬化や糖尿病、認知症などの疾患とも関連があることがわかってきたとし、「歯科治療はむし歯を削って詰めて、抜歯をして入れ歯をつくることに留まるのではなく、口の中の衛生状態、常に向上性を保つということが意識していくことが今後、高齢者が非常に増えてくる歯科医療で重要なポイントではないか」と力を込めた。

腸内細菌が人の生活全般に関与
入江氏は、疾病に限らず健康の維持・増進の観点からも腸内細菌の影響が明らかになっているとし、人の生活全般に腸内細菌が関与していることを詳しく解説した。

10%以上引き上げを

11月20日国会議員要請行動

協会は11月20日、診療報酬の大幅引き上げを求め国会議員会館で集会と国会議員への要請行動に取り組み、住江憲男保団連名誉会長・大阪府保険医協会特別顧問と事務局が参加。大阪選出の国会議員に会員署名1500筆を手渡した。

島田智明衆院議員（自民）との面談では、住江氏が「格差と貧困が広がっている国民の生活が厳しい。社会保障充実の政治に舵を切ってほしい」と訴えた。自身が開業した1981年の診療報酬が100だとすると現在は90まで落ち込んでいる実態を紹介。診療報酬を10%以上引き上げる必要があると迫った。

辰巳孝太郎衆院議員（共産）は医療介護業界の処遇改善問題は抜本的・緊急的に対応が必要状況だと理解を示した。辰巳議員には「保険でよい歯科」署名615筆を手渡した。



島田議員（左）と住江氏

辰巳議員（左）と住江氏、事務局

八幡議員（左）と事務局

3次元プリント 12月から
有床義歯保険適用に

11月12日の中医協総会で、3次元プリント有床義歯が12月診療分から保険適用となった。上下顎同日に装着した場合に限り算定できる。詳細は、FAXニュースを参照されたい。

【作製時の算定点数（1顎につき）】
2,623点（総義歯）+ 230点（装着料）+ 84点（歯冠部材料料（人工歯））= 2,937点



FAXニュース
HP「会員限定ページ」に掲載

政策部による改定解説

人件費、委託費増
設備更新は手控え
厚労省が11月26日に中医協で発表した医療経済実態調査でも同様の傾向が表れた。個人立歯科診療所の医業・介護収益は、診療報酬の改定年度に比べて2・4%伸びたものの、医業・介護費用も2・5%伸びて収支差額は30万円程度の増加にとどまっている。

費用の内訳をみると、給与費3・3%、外注技工料5・9%と伸びが著しい。この経費増の中には、診療報酬の改定年度に比べて2・4%伸びたものの、医業・介護費用も2・5%伸びて収支差額は30万円程度の増加にとどまっている。

医療法人の33%が赤字
個人立と同様の傾向
法人立の歯科診療所はどうか。医業収益は2・2%増、医業・介護費用は2・0%増で、増収分は相殺されている。構成

個人立歯科診療所

N=396	前々年度		前年度	伸び率
	千円	千円		%
I 医業収益	49,677	50,882	2.4	
1. 保険診療収益	42,449	43,571	2.5	
2. その他収益	7,228	7,311	2.6	
II 介護収益	150	162	8.0	
III 医業・介護費用	36,034	36,951	2.5	
1. 給与費	14,906	15,402	3.3	
2. 医薬品費	642	667	3.9	
3. 歯科材料費	3,624	3,692	1.9	
4. 委託費	4,392	4,629	5.4	
（再掲） 歯科技工委託費	3,986	4,221	5.9	
5. 減価償却費	3,157	3,051	▲3.4	
6. その他の医業・介護費用	9,314	9,510	2.1	
（再掲） 設備機器賃借料	525	506	▲3.6	
（再掲） 医療機器賃借料	307	279	▲9.1	
（再掲） 水道光熱費	713	717	0.6	
IV 損益差額（I＋II－III）	13,793	14,093	0.0	

第25回医療経済実態調査（医療機関等調査）報告P612から作成

割合が約5割を占める人件費が1・5%増、外注技工料が7・8%増で経営を圧迫している。その一方、減価償却費がマイナス9・1%で、これらの費用項目合計は約15万円。収支差額増加分の約半分を占めている。

これは、経営努力の域を超えて医療の質を維持する医療機器の設備更新や維持費に影響が及んでいることを表している。

医療法人の33%が赤字
個人立と同様の傾向
法人立の歯科診療所はどうか。医業収益は2・2%増、医業・介護費用は2・0%増で、増収分は相殺されている。構成

と同等に設備投資を手控えて経営を維持している姿が浮かび上がってくる。一般的に収入規模が大きき経営に余裕があるの大幅引き上げが不可欠と見られている医療法人である。

忘年会の予定が入ってくる、1年間が加速度的に短くなっているような気になる。忘年会は鎌倉時代の貴族や武士が連歌（和歌）を詠んだ行事が起源で、江戸時代には1年の労をねぎらう宴会として庶民に広がり、明治時代になってボートや出た官僚や学生の間にも定着していったようだ。

忘年とは「その年の苦勞を忘れる事」と「年齢の差を気に留めない事」の意味がある。忘年会の席は無礼講で酒を飲み交わしながら嫌なことを忘れるのは本来の語義とおりだ。それでも、無礼講とはいえずには使えない、半強制的な事も若い人にウケなくなっていたようだが、コロナ禍以降は忘年会人気も回復しているそう。

ところで今年はどうな事を忘れたのだろうか？ 保護主義、覇権主義、外国人排斥、SNSによるデマ拡散、そこに新政権の軍拡路線など有事に繋がる要素に満ちている。これらの不安定分子は忘れず、些細な日常の不満を忘れるぐらいの忘年にしたいものだ。（N）

年末年始の業務

協会・協同組合は12月27日から1月5日まで休務。1月6日から開始。